

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	カリフォルニア地域産業と英語研修プログラム2016	
学部・研究科名	グローバル教育推進センター	
実施期間	2016年9月1日～9月23日	
研修先(国・都市・施設名)	アメリカ カリフォルニア州 チコ市	
参加者数 : 25名		知の森基金からの支援者 : 14名
プログラム概要	交流協定校である、カリフォルニア州立大学チコ校と協同で企画・実施した3週間のプログラム。信州大学が社会から高い評価を得ている「地域貢献・地域活性化」を課題対照として取り上げ、地域に根ざした企業や農場の見学や専門家によるレクチャーによりカリフォルニアの地域産業を学び、グローバルな視点で問題解決にあたるための基礎力を養成する。また細やかなレベル分けによる英語授業により語学力を高め、現地学生との交流により異文化理解や国際感覚の習得を目指す。	

実施状況・成果

交流協定校である、カリフォルニア州立大学チコ校と協同で企画・実施する、全学部及び修士学生対象の3週間プログラムで、英語学習及び「カリフォルニア地域産業」をテーマとして実施した。

英語については、研修校附属語学学校のAmerican Language & Culture Institute (ALCI)にてリスニング(必修)およびスピーキングまたはライティング(選択)を学んだ。各科目ともブレースメントテストによるレベル分けがされ、それぞれのレベルに応じた少人数多国籍な学習環境が提供された。また滞在はチコ市内の一般家庭へのホームステイで、ホストファミリーとの日常的な会話を通じてネイティブ・スピーカーの自然な英語に触れることができた。

「地域産業」については、信州大学を含む日本国内の地域活性化の事例について各自調べた内容を英語で発表し、地域活性化を身近な課題として捉えイメージを持つとともに、訪問施設についてホームページ等で調べ現地で見聞する内容を考える等の事前学習を出発前に行った。現地ではカリフォルニア地域産業の概要、歴史、現代の課題に関して等、専門家によるレクチャーを3回受講し、また大学の農場や、農業関連企業、食品加工工場での実地見学を行い、地域から全米およびグローバルに展開する企業・農場の実例(経営戦略や地球環境への配慮等)を学んだ。

また、研修先大学で行われている日本語クラスへ複数回参加し、テーマに沿ったグループワークをシリーズで行うことにより現地学生と交流した。また、今回初の試みとして異文化理解に関する模擬授業を行い、現地のアメリカ人学生やその他の国からの留学生とのディスカッションを通じ、交流を深めるとともに、国際的な場面での発信力を鍛えた。

学生の声①ー農学部 学生

意識の変化という面では、英語に対して苦手意識が無くなり、むしろ積極的な姿勢で向き合えるようになりました。自分の研究の中で英語の論文を読むべき場合がありますが、多少難しくとも読み進める努力ができるようになりました。また、研修の中で農業の視察をして、日本との違いや、グローバル化する現代社会における、米国の影響力を学びました。自給力が低く外交において米国との接点が多い日本は、ダメージを正面から受けられないように対応策を早急に練るべきであると思いました。その一方で、自分が思っていたこととは違う現実を目の前にし、そのギャップとカルチャーショックのような刺激が私の好奇心を進化させました。失敗を恐れずに、考えをとにかく伝えて物事に立ち向かう勇気を得ました。

学生の声②ー工学部 学生

この研修が私にとって初めての海外で、初めてのホームステイだったので緊張や不安がとても大きかったけれど、この研修を通じて生きていくうえでの価値観が大きく変わりました。私はシャイな性格なので、アメリカの人とうまくコミュニケーションが取れるか不安でしたが、分からないことがあればすぐに聞く、確認を取る、積極的になることを意識したらホストファミリーとも現地の大学生ともコミュニケーションをとることができました。アメリカ人と生活をする中で、自分から能動的に行動することの大切さ、人よりコミュニケーションを取ることの大切さを学びました。

プログラム修了セレモニーにて



現地学生とのグループワークの様子

